

特 2

456

訂正
觀世流謡別能千番

現在七面

27

現在七面



支世尊の教法ハ五時ハ教ハ配テ

教ヨリ去テ行ハ減存ノ

正像来ヨリ次身して今後五



百歳前ハありハ時撰ハハ妙経

を弘めハ國土安全ノ事ヲ免セ

一ハ甲斐ハ身延寺山ハハ

山

寂實主人の扉の内なる讀誦此經
の書終るとして觀の寫入祈ふの第
天の月まゝあり 尾よの内書き
はまへく驚の法を金にあり卷
津原のしるもむる惠河流深の
声もく驚の法を金にあり卷
は法の書まゝにあり

牙の字書の時ぬきくの日さあ
あはく 平持 我は毎終りのの書あき
の誦禮讀とありふあきあよ
も又あつてたらふ名をいふ
法の教を身あつてもいふ道
ふよ サレ 多秘の靈地ある漢去あての由

いけあつりふ位者ともかく西籍を出

はよ達事。首電の字本優量其の

者まぢらさる地して怪しの後のは

が家おしも縁と結ひ仔の世に園が

さしつらびとつら女おのさる。聖書あ

ゆきやまひひらよ入は結縁となす

斗あり斗又身お成信なり。此は是

経とまじりちねきり着有國法者。此不

成佛と疑はしめて。二業團提懸入女

す。なご成仏ともか類しあり

扱扱きね又ちか類書や。もな女まよも

まじまらぬ。法と院またまじりて

いりて妻が結ひまじりちり見おる

程も女の位とあ。溜るもさし

女の力もあつたかゝるにまじりて
 いつの時もねむる神よ法の後報で
 作の重し罪科を悔の八千度身代
 かつち佛の法はる言の法を恨み
 どのん教まり法苑珠林の法はる言の法を恨み
 仏七十余歳まで始て後をねひ法苑珠林
 よや一味は法の雨にまじりて

ほとんどの敗種の一葉も皆同
 悟のさびしむお文珠の教も龍女も
 須臾も法をさしてけむあつたお男を挂の
 ちの悟る古里も立ぬるも授や錦の
 袂成る法苑珠林汝妙典の如くかへり
 糸も一助もあつてまじりて法苑珠林
 ちか新ろつちや相つちも隔なり法苑珠林

乃水さよほ結ひまゝの昔一尺三釐
の猶さよほまぬまゝ 持も三釐
の昔一さよほまぬまゝと昔一尺六
寸の具神のうりふ女と成るや今
何さうけりしむる神の七面は也
月あまの板まぬまゝ入たぬ蛇身あり
けり懺悔の具まゝの女は也

是の如くあまの板まぬまゝ一尺六
寸と云ふ風まぬまゝと昔一尺六
寸の具神の猶さよほまぬまゝ
持も三釐の昔一さよほまぬまゝ
と昔一尺六寸の具神のうりふ女
と成るや今何さうけりしむる神
の七面は也月あまの板まぬまゝ
入たぬ蛇身ありけり懺悔の具
まゝの女は也

若くは 夢に 夢を 夢に見て 夢を

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

夢に見て 夢を 夢に見て 夢を 夢に見て

の月期にて終るまをうり夜すれ
月も霧も走く和幣ゆり上て書も
むか 謨上 再拜 乾鳥の山
いふすまきま月なまきり
のほもせぬ思まきりや 妙経
信受の功力く三身象満る妙行を
うきく和光同塵結縁の姿顕し

雲谷示現して峴山の鑑守と成る火
難水経りうくの福そのそ七福則
生る福ひとてあやしく重て尻
生さ度く海度きと約福くく
つ行法も白らよきらまはして
空小あくせ給りまり

右之本者觀世大夫織部以章句
真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都三條通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷

明治廿六年二月同日訂正出版

明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
宮内省御用達

訂正者 觀世清廉

板權 所有

發行所 京都市上京區三條通御幸町壹番地
兼印刷者 檜常之助



五十四

九

